

古代～幕末の歌人・俳人・漢詩人など3,000人

# 和歌・俳諧史人名事典

日外アソシエーツ 編

A5・530頁 定価(本体7,200円+税) ISBN978-4-8169-1758-5 2003年1月刊行

## 内容見本

近代以前を網羅！  
この分野最大の  
3,000人を収録

■ 古代から幕末までに、和歌・連歌・俳諧・川柳・漢詩などの分野で活躍した3,000人を収録した人名事典です。

■ 代表的な家集・歌集・句集・文集や通称・別名・号などもプロフィール中に記載しています。

### 好評姉妹編

明治～現在までの詩人・歌人・俳人6,350人を収録  
**詩歌人名事典 新訂第2版**

A5・840頁 定価(本体9,600円+税)  
ISBN978-4-8169-1728-8 2002.7刊

#### 小沢蘆庵 おざわろあん

享保8(1723)年～享和1(1801)年

江戸時代中・後期の歌人。名は玄仲、玄沖、通称は帯刀、別号は観荷堂、閔南亭、孤鷗、七十童、八九童。名古屋藩京都留守居役本庄氏の養子となり、一時、本庄七郎と名乗る。35歳頃鷹司輔平に仕えるが45歳で致仕、京都岡崎に閑居し、以後歌に専念した。天明8(1788)年太秦に移り、寛政4(1792)ま年で住む。はじめ冷泉為村に学び、武者小路実岳にも学ぶが、51歳頃破門され、以後独自の歌論“ただこと歌”を主張。尊王の志をいだし国学にも通じた。伴蒿蹊、本居宣長、上田秋成、蒲生君平など交友も多く、江戸後期の歌壇に多大な影響を与えた。門人には、田山敬儀、江波黙軒、羽倉信美、涌連らがいる。伴蒿蹊、慈延、澄月とともに当時の“歌人四天王”と称された。歌論書に『ちりひぢ』『振分髪』『布留の中道』、歌集に『六帖詠草』など著書多数。

#### 藤原定家 ふじわらのさだいえ

応保2(1162)年～仁治2(1241)年8月20日

平安時代後期・鎌倉時代前期の公卿、歌人。名は明静。藤原俊成の二男、母は若狭守、藤原親忠の娘美福門院加賀。幼少より歌才に優れ、父に囑望されつつ撰家の九条兼実、良経父子に仕えてその庇護を受け、左少将になり順調に出世をしていたが、九条家の政治的失脚や作歌への行きづまりなどで一時不調となる。40歳頃より歌壇に復活して歌風を飛躍させ、後鳥羽上皇の和歌所寄人となり『新古今和歌集』の撰者になり、歌道の第一人者として名声を不動のものとした。さらに後堀河天皇の命により『新勅撰和歌集』を選出するなど、晩年まで歌壇に君臨した。『近代秀歌』『毎月抄』などの歌論は、和歌のみならず後世の連歌や俳諧にまで多大な影響を与え、また日記『明月記』は当時を知る貴重な資料としても重要であり、さらに宇都宮頼綱の求めで撰んだ『百人秀歌』は『小倉百人一首』のもとになったといわれる。「ていか」とも言う。

2017.12

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

**TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845**

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■ 貴店名	注文書	和歌・俳諧史人名事典	冊
		定価(本体7,200円+税) ISBN978-4-8169-1758-5	